

有氏神社(児玉郡神川町)

ありうじ

正面の木々のところが有氏神社





有氏神社の盤台祭り

所在地 埼玉県児玉郡神泉村大字下阿久原二十四番地 有氏神社
指 定 平成四年三月十一日 埼玉県指定無形民俗文化財

有氏神社は、武蔵七党の一つである児玉党の祖、有道惟行をまつると伝えられている。地元では、有氏は有道の転訛であるといひ、祭りを称して「アリツツアマの祭り」とか「裸祭り」とも呼んでいる。この祭りは正徳三年（一七一三）に始まったとされ、祭日は陰暦九月二十九日であったが、現在は十一月十九日に行われている。

祭りの特色は、氏子が毎年交替で祭り番となり、祭りに関するすべてを行うことにある（これを頭屋制という）。祭り当日は、頭屋宅で赤飯（小豆飯）とシトギ（水に浸しておいた粳米を白でついたもの）を作り、赤飯は大きな盤台に盛り付けておく。準備が終ると、神官を先頭に神社へ行き、社前で祭典を執り行う。

祭典後、氏子たちはふんどし姿になつて盤台を高々と持ち上げ、「上げろ、下げろ」の掛け声も勇ましく神輿のようにもんで境内を練りながら、盤台の中の赤飯を四方八方にまき散らす。参詣者は争つてこの赤飯を受け取り、オミゴクと称していた。この間、約四、五分の短い時間であり、赤飯をまき尽くすと、手しめをして祭りは終わる。

なお、この赤飯を食べるとその年の災厄からのがれることができ、お産は安産ですむという。このため、この祭りは安産祈願、子孫繁栄、疫病退散の祭りと言われている。

平成六年三月

埼玉県教育委員会
神泉村教育委員会
有氏神社裸祭保存会

有氏神社は武蔵児玉党の始祖である有道氏を祀ったものであるという





標柱には「県指定文化財有氏神社盤台行事」とある



平成12年に造立された「児玉党祖有道惟行生誕千年記念碑」



アップで見る





右手は「有氏神祠碑」と題する明治26年造立の石碑







説明板が立っている



有道氏の祖廟

武蔵野の開拓者、さらには、関東武士の元祖、として
勇名を馳せた見玉党の開祖である有道一族の祖廟は、
詳らかでない。しかれども、有道維行が朝廷の命により

長官を勤めた阿久原の牧近くには、有道氏を祭る有氏明
神があり、古くより地域の住民によりお祀りされている。

日本古来の宗教観では、先祖霊や特別な功績を上げ尊
厳を認められた人々の霊を人格神として祭るのが自然である。

阿久原地区には、古くより、「有氏明神に隣接した北
の位置にありし古い石塔を東北に移転した際に、人骨が
発掘されこれは阿久原牧時代の有道氏一族の墓であろう」
との言い伝えがあり、しかも、「有氏明神には御神体が存
在しない」等のことより、有氏明神は、有道氏一族の霊域
（墓地）に祠を建て、祭り始めたものであり、古くは霊域
の重要な位置を占めたと推定される有氏明神に隣接した
東北部の畑の中にある古石塔（地下に眠る遺骨）こそ有氏
明神の御神体であるとの説がある。この石塔は、見玉党
もしくは近在の有道氏一族の関係者によって、室町時代
後期から江戸時代初期の間に建立されたものと推定され
るが、品格の高い見事な石塔である。

今回、古石塔及び周辺土地の管理者であり、長年に渡
り秩父瀬地域住民の中心となって有氏明神をお祀りして
きた見玉党の流れを汲む浅見家二十一代当主新一氏のご
尽力により、古石塔が整備復元されたことは、維新生誕
千年を迎えるに当たり、誠に意味有るものと言えよう。
今後、見玉党並びに有道氏に関係する方々はもとより、
その恩恵を受けている地域の方々は、時に参拝し、武蔵
野の開拓と土地生産性に基盤を置いた武家政治の確立に
貢献した先祖の方々の往時を偲び、明日への活力として
頂ければ幸いです。

平成十四年正月

記 見玉党末裔

児玉党もしくは近在の有道氏一族の関係者により室町時代後期から江戸時代初期の間に造立されたと推定される石塔/この地が阿久原の牧であった時代の有道氏一族の墓であったと伝えられる



参考ホームページ

<http://www.niigata-u.com/files/kengai/musashi/061118b1.html>

<http://kamimeguri.web.fc2.com/ariujijinja.html>

<http://www.ksky.ne.jp/~matu-3/3kodamatouennso.html>





参考

兒玉党祖有道惟行

